



## 「<sup>うん</sup>運・<sup>どん</sup>鈍・<sup>こん</sup>根」の勧め

スクールライフアドバイザー 武内 靖

「運鈍根」＝幸運と愚直と根気。事を成しとげるのに必要な3条件としてとりあげられる。（『広辞苑』）とあります。この「<sup>うん</sup>運・<sup>どん</sup>鈍・<sup>こん</sup>根」について私見を述べてみたいと思います。

まず「運」とは、「幸・不幸、世の中の動きなどを支配する人知・人力の及ばないなりゆき」、と同じく『広辞苑』では説明しています。私たちも、日常生活の中でよくない結果を招いたとき、「運が悪かった」と口にすることが多々あります。人は結果のみを評価の対象とし、失敗したり壁にぶつかったりすると、「不運」の一語で片づけようとしがちです。

しかし、ある発明家はその著書の中で、「運」とは自分の努力次第でぐっと身近に引き寄せられるものであり、努力しなければそれは徐々に遠のいていくものだ、と述べています。顔を上げて遠くにある目標を見つめ、時には足下に目を落とし、ひたすら己の道を歩んで行く。そうすれば、「運」はその傍らで、歩調を合わせ共に歩んでくれているのです。

次に「鈍」。愚鈍・鈍感など、あまりいい印象のある語ではありません。対義語である「鋭」は、鋭気・鋭敏・鋭利など、切れ味鋭い印象を受けますが、反面、己をも傷つけてしまいかねない、両刃の刃の危険性をはらんでいるように思われます。

この「鈍」を『広辞苑』では、愚直＝馬鹿正直、という語で置き換えています。まさに石斧の如く、どっしりと落ち着いた、しかし頑なな印象そのものです。他の言動に惑わされず、己の信じた道を唯ひたすら歩み続ける頑固さがこの文字と音に現れています。とすればこの「鈍」の生き方が、前述の「運」を導いてくれるものでしょうか。

最後に「根」。昔、「目・耳・鼻・舌・心・意」の感覚器官を六根と呼び、日常生活の根幹としました。根はみなもとであり、植物が養分を吸収するもっとも大切な部分です。私たちは桜の花を愛で、紅葉を觀賞することはあっても、それを支えている根に思いを至すことはありません。ともすれば地上部の葉や枝に目がいきがちですが、それ以上の広さ深さに張っている根があってこそ、来期の成長を期待することができます。時流に乗って華やかな花を付けても、しょせん根無し草は徒花（あだばな＝実のならない花）にすぎません。人とて同じ。見えない部分はいかにしがちですが、大地に深く張った根こそ、大切に充実させたいものです。自らの来し方を大いに反省し、この文章を記しました。まだ十代であり、更なる可能性を秘めた君たちだからこそ、太く逞しい「根」を養成し、「鈍」と腰を据えて、「運」を自分の味方につけるべく歩んでください。

スクールライフアドバイザー 武内 靖先生

### 11月・12月の来校予定日

11月7日(火)・14日(火)・21日(火)・28日(火)

12月5日(火)・12日(火)・19日(火)・26日(火)



※どのような場合でも、話の内容の秘密は厳守されますので、安心して相談してください。